

平成 21 年 8 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社 日本エスコン  
 代表者名 取締役社長 直 江 啓 文  
 ( J A S D A Q ・ コード 8892 )  
 問合せ先 執行役員 古 川 格  
 電 話 06-6223-8067

たな卸資産評価損の計上及び平成 21 年 12 月期第 2 四半期業績予想との差異  
 ならびに平成 21 年 12 月期配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向等を踏まえ、平成 21 年 7 月 3 日に公表いたしました平成 21 年 12 月期第 2 四半期（平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日）業績予想及び平成 21 年 2 月 20 日に公表いたしました平成 21 年 12 月期配当予想を下記のとおり修正することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. たな卸資産評価損の計上について

平成 21 年 7 月 3 日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表しておりますとおり、たな卸資産を直近の市場環境等を勘案し、再度評価を行った結果、たな卸資産評価損 3,357 百万円を売上原価に計上する見通しでありましたが、今般の第 2 四半期のレビューにあたり、再度、直近の市場環境等を勘案し、たな卸資産について評価を行ったところ、当初予想よりたな卸資産評価損が 580 百万円増加した結果、たな卸資産評価損 3,937 百万円を売上原価に計上することとなりました。

2. 平成 21 年 12 月期第 2 四半期（平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日）業績予想との差異

(1) 連結

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回発表予想 (A)	11,000	△2,800	△3,750	△7,450
今回修正予想 (B)	10,933	△3,519	△4,382	△8,034
増減額 (B - A)	△67	△719	△632	△584
増減率 (%)	△0.6	—	—	—
(参考)前期第 2 四半期実績 (平成 20 年 12 月期第 2 四半期)	12,569	1,713	370	235

(2) 個別

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回発表予想 (A)	10,100	△100	△600	△7,500
今回修正予想 (B)	9,990	△1,633	△2,105	△7,951
増減額 (B - A)	△110	△1,533	△1,505	△451
増減率 (%)	△1.1	—	—	—
(参考)前期第 2 四半期実績 (平成 20 年 12 月期第 2 四半期)	11,823	1,385	474	308

### (3) 平成21年12月期第2四半期業績予想との差異が生じた理由

#### ①連結

平成21年7月3日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表しておりますとおり、たな卸資産及び固定資産を直近の市場環境等を勘案し、再度評価を行った結果、たな卸資産評価損3,357百万円を売上原価に、減損損失2,255百万円を特別損失に計上する見通しでありましたが、今般の第2四半期のレビューにあたり、再度、直近の市場環境等を勘案し、たな卸資産及び固定資産について評価を行ったところ、当初予想よりたな卸資産評価損が580百万円増加し、減損損失が249百万円減少した結果、たな卸資産評価損3,937百万円を売上原価に、減損損失2,005百万円を特別損失に計上することとなりました。

これらの理由により、上記のとおり業績予想との差異が生じることとなりました。

#### ②個別

個別業績の修正理由につきましては、連結業績予想の差異が生じた理由と同様であり、当初予想よりたな卸資産評価損が1,580百万円増加し、減損損失が39百万円減少した結果、たな卸資産評価損1,860百万円を売上原価に、固定資産の減損損失972百万円を特別損失に計上することとなりました。

これらの理由により、上記のとおり業績予想との差異が生じることとなりました。

### 3. 平成21年12月期配当予想の修正

#### (1) 修正の内容

基準日	一株当たり配当金		
	中間配当	期末配当	年間配当
前回発表予想 (平成21年2月20日)	— 円	500 円	500 円
今回修正予想	— 円	0 円	0 円
(参考) 前期実績 (平成20年12月期通期)	— 円	0 円	0 円

#### (2) 平成21年12月期配当予想の修正理由

当社は、分譲事業を始め、資金需要が旺盛な事業を擁しており、迅速な事業展開を要求される経済情勢下、財務基盤を強固に保つ一方、株主の皆様に対する利益還元も経営の重要課題の一つと考え、業績の状況、内部留保の充実ならびに配当性向等を総合的に勘案し、継続的かつ企業の成長力に応じた安定的な利益還元を努めていく方針であります。

しかしながら、上記のとおり平成21年12月期第2四半期において、当期純損失を計上する見込みであります。この業績及び財務の状況ならびに今後の事業再生ADR手続における事業再生への取り組み、内部留保の充実等を総合的に勘案し、慎重に検討いたしました結果、誠に遺憾ながら当期末の配当は見送らせていただきたいと存じます。

株主の皆様におかれましては、何卒ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

なお、平成21年12月期通期業績予想についても今後修正が予想される場所ではありますが、平成21年6月22日付「事業再生ADR手続及び今後の事業再生への取り組みに関するお知らせ」及び平成21年7月3日付「事業再生ADR手続の進捗状況に関するお知らせ」にて公表しておりますとおり、現在事業再生ADR手続を行っているところであり、計画案の成否を含め、今後の事業再生ADR手続における債権者会議にて確定する予定ですので、現段階においては業績の予想をし難い状況にあります。

したがって、本件につきましては、今後確定次第速やかに開示を行います。

以上

※上記の予想は本資料発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。